



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の権利と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

JCHO人吉医療センター災害実動訓練・病院フェスティバルのご案内

平成30年9月23日(日)人吉市総合防災訓練と連携し、人吉医療センター災害実動訓練を行います。当日は地域の行政機関や医療機関をはじめ、人吉医療センター地域協力会、アマチュア無線クラブの皆様にもご協力頂きます。当院は人吉球磨地域の災害拠点病院に指定されており、災害時の医療拠点として、研鑽して参ります。

当日は騒音及び正面玄関、本館棟1階を主に使用する

ため、入院中及び来院の皆様にご迷惑をおかけ致しますが、ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。

また、訓練後11時から当院敷地内において、人吉医療センター病院フェスティバル Vol.11を開催します。今回は、開院140周年にちなんで市民公開講座を予定しております。

昨年に引き続きくもモン隊も出動決定！どうぞ皆さままでおいで下さい！



訓練等(昨年の様子)

病院フェスティバルプログラム

2018.9.23(日) 11:00 ~ 15:30

- 市民公開講座 『明治維新時代からの人吉医療センター～肥後(熊本)から明治維新をみる～』 13:00 ~ 医療法人外山胃腸病院 岐部明廣先生
『後発医薬品を安全に使用する為に』
JCHO 人吉医療センター 薬剤科長 福島ゆかり
- 「日曜日に乳がん検査を(予約制/定員20名)」
- モバイルファーマシーの展示(熊本県薬剤師会)
- 多種体験・相談ブース
※塩分 check、骨粗鬆症検査など、人気のコーナーではご来場いただく人数によって、体験できない場合がございます。ご了承ください。
- こどもメッセージぬりえ、おとな絵手紙作品展示及び表彰
- リサイクルワゴン sale ■人吉第一中学校吹奏楽部演奏
- ReaRize、人吉よさこい銀翔会、健康体操/3B愛好会 その他
- 各種販売協力: 地域協力会・どきやんか先番隊・光洋(予定)
- クイズラリー(綿菓子プレゼント提供: 人吉ライオンズクラブ)
- 抽選会 ほか 都合により催し物の内容に変更が生じた場合はご了承ください。

ステージの部&絵手紙コンテストの参加者を募集しております！
是非この機会に日頃の成果を披露されてみてはいかがでしょうか！

JCHO 人吉医療センターフェスティバル実行委員会 ☎ 0966-22-2191

病院フェスティバル 歯科口腔外科ブースからのお知らせ

口腔ケアにより高齢者の誤嚥性肺炎や周術期の合併症を予防しうることが言われています。その具体的な方法については歯垢や歯石の除去に重きを置いていましたが、最近になり舌苔や口腔粘膜のケアの重要性が指摘されるようになってきました。また、舌苔は口腔内に存在する微生物の増殖の場となり、口臭の原因となっているため、舌の清掃は口臭の予防につながると言われています。

舌清掃の方法は舌ブラシによる機械的清掃が一般的ですが、フルーツの持つ力(酵素)で、化学的に舌苔を分解し、容易に除去する事が可能と考えられてきています。そこで、歯科口腔外科ブースでは試作フルーツキャンディを作製し、それを使って舌を美しくし、快適な口腔環境を目指す「舌のビューティーケア」企画を予定しています。

参加は無料で、対象は20歳以上の方とさせて頂いております。興味がある方は、是非お越しください。*先着順で、フルーツキャンディがなくなりしだい終了となります。

歯科口腔外科 石神 哲郎、松永 千恵

性教育講話を受けて

7月11日に球磨中央高等学校で性教育講演を当院の大竹秀幸副院長が行いました。生徒の方から感想をいただきましたのでご紹介いたします。

今回の講話を受けて、初めて知ったことや学んだことが沢山ありました。私が特に印象に残っていることは、「産道」のお話です。産道は人間が人生で初めて通る道であり、またすごく危険な道であり、私達はそれを通ってきたと言われた時、すごいなと思いました。そして性交にも様々なリスクがあると改めて学びました。私は、今回「役割を担うことが『生』の目的」とおっしゃられたことを知り、自分自身もまかされた仕事や係などは責任をもってやっていきたいと思いました。講話での話を忘れず、自分の将来に生かせたいです。

今回の講話を聞いて、生と性について深く学ぶことができました。性は間違った理解をしているとリスクが高まっ

てしまうことが分かりました。私は、交通事故の死亡率と妊産婦の死亡率が一緒であるということにびっくりしました。子供を産む時はしっかり子供を養うことができるように時期を考えないと、もし、妊娠してしまった時に困らないようにしたいです。そして子供には、きちんと愛情を持ってちゃんとした大人、人間になれるようにしようと思いました。とても良い学習ができました。



第3回 地域医療サポーター養成講座開催!!

7月25日(木)、第3回 地域医療サポーター養成講座を開催しました。今回は、『地域住民に知っていただきたい医療のアレコレ』と題し、総合診療科 平賀 円 先生から、総合診療科とは何か、どんな疾患を診るのか、についてお話いただきました。病気だけでなく、あなたのすべてを診る医者(あなたのため、家族のため)、人生というものに真摯に向き合う診療を行う、“パソコンではなく患者さんの眼をみた診療を心がけている”、と人柄溢れるものでした。また、寿命や健康、幸せについてなど、価値観や生き方にも通ずる幅広い視点からのお話もありました。ここで、参加者からいただいた感想を一部ご紹介させていただきます。

- ・初めて総合診療科の先生の話聞いて、総合診療科について大変勉強になった。
- ・総合診療科の先生が増えて、患者さんの話をよく聴くようになったら素晴らしいと思う。
- ・自分を考える機会になった。「感謝して生きること」を考えた。

地域医療サポーター養成講座では、参加者の方々のご要望を取り入れつつ、医療の入門から専門領域まで、幅広い内容の講座開催を目指しております。ご興味のある方は、医療福祉連携室までお気軽にお問い合わせください。皆さまのご参加、お待ちしております。



【次回のご案内】

日にち	9月26日(水)
場 所	3階 研修室2
時 間	13時～
講 師	管理栄養士 田口 ゆり さん
テーマ	『低栄養を予防して、活いきとした生活を!』

【お問い合わせ・参加申し込み先】

医療福祉連携室 TEL:0966-22-2191 (代表)

第20回日本医療マネジメント学会

第20回日本医療マネジメント学会学術総会が「信頼-地域に根ざした強いチーム力を培う-」というテーマで平成30年6月8日(金)から9日(土)の2日間、北海道札幌市で開催され、院内より4名の看護師が参加し講演発表に2題・クリティカルパス部門に2題発表を行いました。

6月の北海道は初めてで熊本との温度差は覚悟していたものの、出発2日前に北海道は全国一番の暑さで、最高気温が34度に達したというニュースを参考に春物を準備し北海道へ向かいました。しかし、天候は雨ということもあり極寒で道民はダウンジャケットを着用していました。北海道と九州の温度差を体感することができ、北海道名物の石狩鍋やジンギスカン、新鮮な海鮮を頂きました。

また、学会期間と同期間にYOSAKOI祭りが開催され、宿泊したホテルが大通り公園前であったこともあり、この写真の様な壮大なお祭りを体験することができました。

東京医療保険大学の坂本先生よりクリティカルパスはお互い役割分担するためのツールというのではなくチームで標準的な治療の流れを共有



しながらアウトカムマネジメントができるという点が優れており、チーム医療が効率・効果的な医療に繋がることを説明されました。また、当院で未作成パスの発表もあったため、DrやMSWと連携を図り新規パス作成に繋げていきたいと思っています。今回、学会に参加し学んだ事を今後の業務に活かしていきたいと思っています。

看護師 福屋 サチ・平野 美穂・宮川 智美・和田 彩未

毎年9月は「がん征圧月間」です！

「がん征圧月間」とは、日本対がん協会、日本医師会の主催により、1960年に開始したがんの啓発月間です。がんの正しい予防知識や早期発見・早期治療の重要性などを広く伝えるための啓発活動などが強化される月間です。

今年度の日本対がん協会のがん征圧スローガンが「がん検診 未来の自分にできること」に決まり、全国的にがん征圧に向けた様々な取り組みが行われます。ここでは熊本県内の取り組みをいくつかご紹介します。

【熊本県内のイベント】

- おしゃべり相談室：がん経験者が少人数でお話を聞いてくれるピアカウンセリングです。
- がんサロン：患者同士の話合いの場です。県内26カ所ほどあり、どのサロンにも参加可能です。当院も毎月第4水曜日に開催しています。
- ※働き & 子育て世代のためのがんサロン：就労・子育て世代の患者さんとご家族が対象のサロンです。
- 「グリーフケアサロン熊本」：大切な人を喪った方が集まって泣いたり、語ったり、その場にいることを大切に、悲嘆作業 (grief work) を促すサロンです。

【その他の取り組み】

- がん就労支援
熊本県における就労可能年齢（20歳から64歳まで）のがん罹患者は3,394人（全体の28.1%）。現在、熊本県では、がん相談支援センターと社会保険労務士・ハローワークなどが連携して就労支援を行う取り組みが進められています。働くことは生活や治療継続のため、さらに生き甲斐や生活の質の維持にもつながります。仕事を辞める前に一度立ち止まり、考えてみませんか。当院のがん相談支援センターへご相談ください。
- 図書館でがん相談：隔月でくまもと森都心プラザ図書館で県内のがん専門相談員ががんについてのレクチャーや個別相談に応じています。
- リレーフォーライフ：全国的な活動で、熊本でも毎年開催され、サバイバーや医療関係者が24時間交代でウォーキングしたりブース設置や各イベントにて、がん征圧に向けた啓発や募金活動などを行なっています。

【関連トピック】

★「エンディングノート」をご存知ですか？

人生の終焉を見つめて準備することで今をより良く生きようとする「終活」とともに、自分の生と終焉を書き綴る「エンディングノート」が注目されています。法的拘束力を持ち得る遺言書・遺書とは違い、エンディングノートは「人生の記録」と言えます。必ずしも死に特化したものではありません。決まった形式はなく、市販のノートやWord、Excelを使っても良いようです。

まずは、終末期医療についての対応や葬儀への希望、友人や知人などへの連絡先、貯蓄・保険・年金・その他の貴重品の情報など、突然亡くなった場合でも家族が困らないための情報を書いておきましょう。

※全国の市役所・町村役場では、独自のエンディングノートを作成し、無料で配布したり、ホームページからダウンロードしたりできる場所もあるようです。当院も人吉球磨の各市町村などから要請があれば、エンディングノート作成につき講師を派遣しております。その他ご質問があれば、当院がん相談支援センターへお問い合わせください。

エンディングノートの内容について、以下に例を挙げますので参考にしてみてください。

- 自分のこと：自分史／身の回りのこと／デジタル情報（アドレス、パスワード等）／財産のこと：通帳と印鑑、各証書の情報／医療・介護のこと：末期症状や認知症により自己判断ができなくなったときの対応方法／葬儀・お墓のこと／連絡先：交友関係を把握できるように／メッセージ：家族や友人に対し、感謝の言葉、思い出、最後に伝えたいことなど。

エンディングノートは「死のためのノート」ではなく、「より良く自分らしい終焉を迎えるためのノート」。いわば未来が見えてくるライフプランのようなものです。皆さんもエンディングノートを始めてみませんか？

当院 患者用図書室もちの樹にエンディングノートの見本を設置予定です。ご参考にどうぞ。



特別臨床実習 ―地域医療―

今回、地域医療を学ぶため人吉医療センターにて実習をさせていただきました。3週間という長い期間学外へ実習に出るのは初めてで、最初はとても緊張していました。しかし、院長先生をはじめ多くの先生方やメディカルスタッフの皆さん、事務の方々など全員に温かく接して頂き、すぐに慣れることが出来ました。



実習では総合診療科をメインに問診や身体診察、カルテの入力をさせて頂き、また朝夕の回診にも同行させていただきました。3週間毎日患者さんにお会いすると、少しずつ皆さんの日々の体調の変化が分かるようになり、患者さんと密にコミュニケーションをとることの大切さを身に沁みて感じました。訪問看護にも何度か同行させて頂き、患者さんの治療のことだけでなく生活そのものに真摯に向き合う看護師の方々の姿勢から多くを学べたように思います。その他にも小児科・代謝内科・循環器内科などを見学したり、五木村診療所での実習など地域医療について幅広く学習する機会を用意して頂き、感謝しています。

3週間、楽しく有意義な時間を過ごさせて頂いたと同時に、地域における高齢化や医師不足、医療の現状について学び、複雑な気持ちになりました。同じような状況の地域が至るところにあるのだと思うと、地域における医師の育成の重要性を強く感じました。

最後になりましたが、今回の実習でお世話になった方々に、心より感謝申し上げます。また実習の機会がありましたらよろしくお願い致します。

熊本大学 5年 中村 優里

3週間地域医療実習でお世話になりました。

私たちの学年から、クリクラの地域医療実習が必修になり、また第1ターム目だったということもあり、実習前は少しの不安と緊張がありましたが、振り返るとあつという間でとても楽しく充実した日々を過ごすことができ、人吉医療センターで実習ができて本当に良かったと思っています。

なかでも五木村での診療や、訪問看護に行かせていただけたのは地域医療実習だからこそできた貴重な経験だったと思います。実際に行ってみると五木村がどんな村でそこにどう暮らしているのか、人々が住んでいるのか、訪問看護では、在宅の患者さんがどんな家で誰とどう暮らしているのか等がわかりやすいので医療者と患者さんがより近い関係を築いている印象を受けました。

総合診療科や救急外来の実習では患者さんに関わる機会を多くいただけたのがとても良かったです。患者さんの問診、身体診察、カルテ記入など今まであまり経験してこなかったためとても苦戦しましたが、その分学びも多くとても勉強になりました。また、朝夕の回診を通して、毎日患者さんの顔を見に行くことが大切なことだと思うようになったのは今までの自分とは意識が変わったところだと思います。

人吉は山や、川がとても綺麗で自然が美しく、ご飯も美味しく、温泉もあって、実習でお世話になった先生、研修医の先生、医療スタッフの皆様がとても親切で温かく素敵なお方ばかりで実習が終わるのが寂しく感じる程人吉が大好きになりました。3週間誠にありがとうございました。

熊本大学医学部 5年 長岡 紗由

院内医療安全研修会

今回、「安全文化を考えよう！」と題して、院内医療安全研修会が職員対象に6月26・28・29日の3日間実施されました。

安全な医療サービスは医療の最も基本的な要件の一つであり、昨今医療機関において、インシデントの情報共有を行い、アクシデントを未然に防ぐ組織体制の構築が求められています。

研修では、事前対策・事象予期による危険回避ができる組織体制の構築を念頭に置き、職員への意識啓発とした内容でした。医療安全文化は、報告・学習・柔軟・正義の4つの文化から成

り立ち、安全の土台を築くうえで、インシデント報告するための人的環境の重要性や、報告内容の分析・検討・対策を行い、より良質な医療の提供へと繋げる取組みを行っていくものです。

急性期を担う地域の中核病院のスタッフとして、日々医療安全の研鑽に励み、より良い医療サービスの提供を継続できるよう、日々の業務に励みたいと感じました。

理学療法士 大山 秀人



DMAT（災害医療派遣チーム）の訓練で、宮崎へ行ってきました！

8月4日、南海トラフ地震を想定したDMATの訓練に参加してきました。

今回の被災地想定は、宮崎県、大分県、四国3県でした。

当院からは2チームのDMATが参加しました。

第1チーム：【医師】下川 【看護師】尾方 立開
【業務調整員】田上 PT

第2チーム：【医師】渡邊 【看護師】小栗 杉松 西山博

<当日のミッション>

○朝9時までに、DMAT活動拠点本部のある宮崎大学へ参集。
(地震で通行できなくなった道を避けて到達します。)

○本部で受け付けをし、指示があるまで待機。
(待つこともDMATの仕事です。)

○本部から、宮崎大学病院そのものの支援に回るよう指示あり。
第1チームは、下川先生が医師不在のトリアージエリアへ、他の3人は本部活動の支援へ。

第2チームは、全員が黄色（中等症）エリアの支援へ。



<自分の振り返り>

○黄色エリアでは、自分が患者診察を担当することにより、その病院の医師には、患者移送のマネジメントに専念してもらう事ができた。

○人・物・時間が限られた中で、数十人の外傷模擬患者を診察し、良い経験になった。

○自分たちのチームがエコーを持ち込むことで、ショックの診療の質が上がった。

DMATが出勤する際には、バックアップのご協力をよろしくお願い致します。

人吉医療センター DMAT 渡邊 龍太郎

ハイパーサーミア導入から1年を迎えて

当院では2017年8月よりハイパーサーミア装置を導入し治療を開始しております。ハイパーサーミアとは電磁波を用いてがん細胞を加温することでがんの縮小や放射線治療、化学療法（抗がん剤治療）、免疫療法の効果の増強を目的とするがんの治療方法の1つです。

昨年8月より1年間で50名の方の治療を行っております。治療部位としては、胆のうや膵臓、肝臓、胃などの上腹部領域から、子宮や卵巣、直腸、前立腺などの下腹部領域、乳房や口腔、頸部、腋窩リンパ節などの表在領域まで幅広い治療を行っております。

併用の種類も、放射線治療や化学療法（抗がん剤治療）、ホルモン療法、高気圧酸素療法など多種類の治療法と併用して行っております。

がんの治療方法は手術、抗がん剤、放射線治療など様々な手段がありますが、当院では、高気圧酸素療法、そしてハイパーサーミア温熱療法を組み合わせ、患者様の病状、生活に合った治療を提供してまいります。

ハイパーサーミア温熱療法に関しまして、毎週金曜の午後よりハイパーサーミア外来を開設いたしましたので、治療の希望、その他ご質問等ありましたら、予約センターにご連絡の上、ご予約をお願いいたします。

<ハイパーサーミア外来のご予約>

JCHO 人吉医療センター 予約センター 0966-22-1900

画像診断センター 中西 節

70歳以上の高額療養費が変更になりました！

- ① 70歳以上の一般課税世帯に該当される方の、外来診療における医療費の上限金額が引き上げられました。
- ② 70歳以上の現役並みの世帯に該当される方（3割負担）の限度額区分が細分化されました。

・平成30年7月31日まで

区分	患者負担限度額 / (月額) ※月をまたがった場合はこの限りではありません。	
	外来の場合（個人ごと）	入院の場合・ 世帯単位の患者負担限度額
一定以上所得者	57,600円	約8～9万円 (多数該当44,400円)
一般世帯	14,000円 (年間上限144,000円)	57,600円 (多数該当44,400円)

・平成30年8月1日から

区分	患者負担限度額 / (月額) ※月をまたがった場合はこの限りではありません。	
	外来の場合（個人ごと）	入院の場合・ 世帯単位の患者負担限度額
現役並み世帯Ⅲ	※約25～26万円 (多数該当140,100円)	
現役並み世帯Ⅱ	※約16～17万円 (多数該当93,000円)	
現役並み世帯Ⅰ	※8～9万円 (多数該当44,400円)	
一般世帯	※18,000円 (年間上限144,000円)	57,600円 (多数該当44,400円)

『現役並みの所得区分Ⅰ・Ⅱ』に該当される高額な療養を継続的に受けている70歳以上の被保険者及び被扶養者については、限度額適用認定証の申請が必要になりました。

救急医療研修会

平成30年7月23日、熊本市市町村保健師協議会 人吉球磨地区研修会（場所：人吉市保健所）において、「救急外来から見える課題と応急処置について」という題材で約90分の講話をさせていただきました。課題を明確にするために、当院の救急患者データを分析する事から始め、地域別の救急搬送件数、搬入先の内訳、急性冠症候群・脳卒中などの疾患群、施設からの搬送内容と転帰など、カテゴリ別に統計を算出しました。その中で見えていくつかの課題を提示し、行政の保健師がどのように関わっていく事が重要か、文献と私見を交えて話をさせていただきました。また応急処置に関しては、急病者の初期対応と観

察ポイント、熱中症に関して話をさせていただきました。

少子高齢化が急激に進む昨今、地域住民と密に接している行政保健師の役割は重要であると考えております。今回の講話が少しでも参加された方の役に立ち、地域住民へ還元できれば幸いです。

最後に、今回このような貴重な経験をさせていただきました、人吉球磨地区研修会担当者様に感謝申し上げます。

救急看護認定看護師 杉松 幸太郎



中・高校生インターンシップ

人吉市立第一中学校、熊本県立人吉高等学校の生徒の皆さんからインターンシップに参加されての感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

◆私は、今回の福祉職場体験に参加して色々なことが分かりました。まず、患者さんとの接し方です。話すときは敬語で話すこと、あいさつなど礼儀正しくすることを学びました。次に仕事の大変さです。私が思っていた以上に大変で、とても疲れました。それでもいろんな仕事をやっているナースの人たちはとってもすごいなあと思いました。私は将来、フライトナースになりたいです。今回の経験をいかしていけるといいです。

熊本県立人吉市立第一中学校 1年

◆私は人吉医療センターでのボランティアを通して看護師になりたいという気持ちが大きくなりました。病棟で、シーツ交換や昼食の配膳のお手伝いもさせてもらいました。看護師さんが、患者さんに優しく声をかけている姿や、仕事をてきぱきされている姿を見て本当に凄いなと思ったし、何より私も立派な看護師になりたいと思いました。また、医者や看護師さん以外にも器具をきれいにする人たちの仕事も体験できて本当によかったです。

熊本県立人吉高等学校 1年



◆私は将来、臨床検査技師になろうと考えています。検査技師については、血液や細胞を調べる仕事だと思っていました。実際は、エコーなど幅広い分野に及んでいて、特に病理に興味がありました。薬剤科は、非常に多くの種類の薬を管理していることが難しそうだったりと、2日間で見させて頂いた職の中で、どの人も責任感をしっかり持っていて、わたしもそんな人になって、医療で人を助けられるようになりたいです。インターンシップ、お世話になりました。ありがとうございました。

熊本県立人吉高等学校 2年

◆今回のボランティアでは、多くの事を学ばせて頂きありがとうございました。体験の中で、患者さんやスタッフの方同士でのコミュニケーションを大切にされていると感じました。また、周りに気を配り自らが積極的に動くことの重要性も感じました。医療現場で働くことは大変だと思いますが、改めて人を助けるということに感動しました。この経験を進路にも繋げていきたいです。本当にお世話になりました。

熊本県立人吉高等学校 3年

高校生の一日看護体験

7月27日（金）、高校生を対象にした「1日看護体験」を行いました。今回は21名の参加があり、看護師と一緒に患者さんとふれ合い、色々な看護業務を体験していただきました。

参加者に感想を頂きましたので、紹介致します。

私は看護体験で、5病棟の循環器科・整形外科に行きました。私はこの科で、手術後の看護ケアやリハビリ、血圧の測り方などを体験しました。血圧は手首の所の動脈を測りながら触れなくなるまでゴム球で空気を入れていくのですが、私は動脈が触れているか触れていないのか解らなくて看護師さんに助けてもらい、こんなに血圧を測るだけなのに難しいんだと思いました。



ました。他にも患者さんのところで、そのときの血圧や、体温、酸素量などを小まめに記録し、手術したところが感染症になっていないかを確認されていたので、基本的だけど素晴らしいなと思いました。

本日の体験で、さまざまな事が学べたし、看護師はカッコいいなと思いました。

熊本県立人吉高等学校 2年

ゆかた会

浴衣を着て、ビールでも飲みながら涼みませんか？と、毎年企画している“ゆかた会”。今年は7名が集まりました。着付けをし、“あゆの里”さんの足湯でほっこりした後、いざ屋上ビアガーデンへ！



お互いに日頃の頑張りを労い「かんぱ〜い!」。美味しい生ビールが空きっ腹にしました。

人吉の夜景をバックに、涼しい風を感じながら楽しんでいると、ポツポツポツ・・・ザーっと、雨が！近くの男性陣がパラソルを立ててくださり、店員さんが準備してくださったバスタオルにくるまりながら、ビアガーデンを満喫しました。

普段は着物を着る機会が少ない方にも、まずは浴衣から着物を身近に感じていただけたらと、毎年企画していますので、来年はぜひご参加くださいね。

6階病棟 看護師 永田 美妃

新 任 紹 介



鬼木 和子 (医事課・事務員)
最終卒業校：球磨商業高等学校
趣味：音楽鑑賞
好きな言葉：一期一会

自分の性格：マイペース

自分のコマーシャル：1日でも早く仕事に慣れて、皆様のお役に立てるように頑張ります



森下 かおり (9階病棟・療養介助員)
最終卒業校：球磨商業高等学校
趣味：音楽鑑賞・読書
自分の性格：マイペース

自分のコマーシャル：頑張りますので、よろしくお願いします。



西 あゆみ (5階西病棟・療養介助員)
最終卒業校：人吉高等学校
趣味：温泉旅行
モットー：笑顔

自分の性格：人見知り

自分のコマーシャル：一生懸命頑張りたいと思います。



久保谷 美夕 (予防医療センター・事務員)
最終卒業校：球磨商業高等学校
趣味：読書、音楽を聞く事
好きな言葉：直往邁進

長所：明るい、好きなものの幅が広い

短所：自分の意見をはっきり伝えられないところがあるので、変えていきたいです

自分のコマーシャル：周りの方をしっかりと見て、聞く事を恥とせず、たくさん学んでいきたいです。相手のことを考えて動いていきたいです。

JCHO 人吉医療センター 卒後臨床研修プログラム協力施設 の朝戸医院を紹介します！

朝戸医院は鹿児島県沖永良部島にあり、とても美しい島で地域に根差した診療をされています。昨年度から当院臨床研修医の地域医療研修を受け入れていただいております。8月は木下先生が研修中で、とても充実した日々を送っています！と報告がありました。(次号では木下先生の研修報告を掲載します)



左) 院長 朝戸 末男 先生
右) 副院長 朝戸 俊行 先生



8月の勉強会報告

8月20日(月)第94回乳腺カンファレンス

「当院における乳癌術前化学療法の検討」

当院 化学療法室 矢立 雅章 看護師

「乳癌治療経過中に炎症性乳癌様の变化を認めた一例」

当院 臨床研修医 佐藤 慶治先生

「脳転移にのみ薬物療法が無効であったステージⅣ転移性乳癌症例」

当院 臨床研修医 石内 聡一郎先生

8月29日(水)院内勉強会

「間質性肺炎診療の概説」

熊本大学大学院生命科学研究部 呼吸器内科学 教授

坂上 拓郎先生

8月30日(木)県南乳癌Webセミナー

「ER陽性HER2陰性 進行・再発乳癌の治療方針」

熊本大学大学院乳癌・内分泌外科教授 岩瀬 弘敬先生